

## 事例研究報告

**活動に取り組むまでの  
潜時間を短くするための指導**  
～着替えを10分以内に終わらせよう～

## 児童・生徒の実態

### ○小学部児童 自閉症

○空想の世界に入りやすく、アンパンマンの台詞を口にしたり、指遊びをしたりしている。

→空想の世界に入り込むと、指示が通りにくくなり、次の活動へ取り組むまでに時間がかかる。

○聴覚に過敏さがある。他児の叫び声や鳴き声などが苦手。

→苦手な音が聞こえると、耳を塞いで座り込んでしまうため、次の活動へ移るまでにさらに時間がかかる。

## 保護者の願い

楽しく学校生活を送ってほしい！



## 教員の願い

スケジュールに沿ってスムーズな学校生活を送ってほしい！  
☆10分以内に着替えられるようになってほしい！（標的行動）

## アドバイザーからの助言

### ①連鎖的に行動を教えよう！

空想の世界に入ったり，座り込む前に，プロンプトをたくさん出して，一連の流れで行動が行えるようにすること。

### ②強化の仕方を工夫しよう！

～小強化と大強化の使い分け～

小強化：教員の「そう、そう」「いいね」のことばかけ。

大強化：iPadやお菓子など。



### ③ひとりで着替えられるように工夫しよう！

一連の流れで行動が行えるようになってきたら，少しずつプロンプトを減らしていくことが大切。ひとりで着替えられるように環境設定を。

## 助言を受けての見直し①

### ○連鎖的に行動を教えよう！

#### <助言前>

- ①対象児がスケジュールを確認した後、10秒程度反応を待ってからプロンプトを出す。

#### <助言後>

- ①対象児がスケジュールを確認した後、すぐに(0.5秒以内に)プロンプトを出す。一連の流れで行動ができるようにするために、はじめは教員がスケジュールを裏返したり、着替えを持ってあげたりしてプロンプトを多めに出す。



## 助言を受けての見直し②

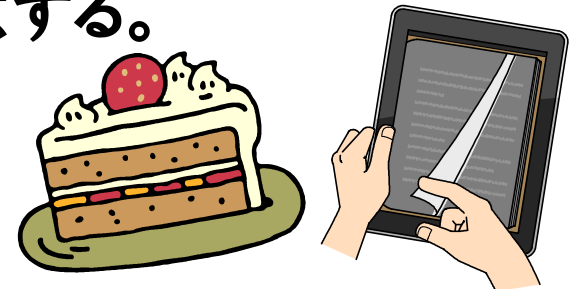
# ○強化の仕方を工夫しよう！

### <助言前>

- ①着替えが全て終わったら、iPadやベビースターなど対象児の好子となるものを用意する。

### <助言後>

- ①対象児にできているという実感を持たせるため、着替えに取り組んでいる間に「そう、そう」「いいね」などのことばかけ(小強化)を行う。また、着替えが全て終わったら、iPadやベビースターなどの好子(大強化)となるものを用意する。



## 助言を受けての見直し③

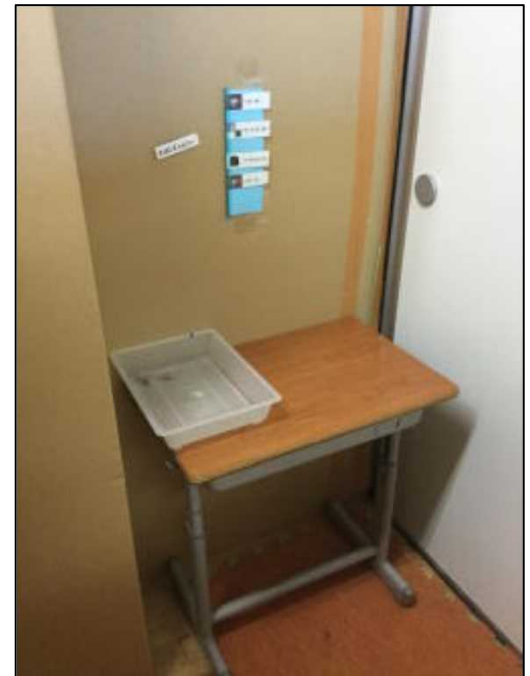
# ○ひとりで着替えられるように工夫しよう！

### <助言前>

- ①着替えが終わるまでは、教員も着替えコーナーの中にいて見守る。
- ②上着の着脱の際、イヤーマフの取り外しは教員が行う。

### <助言後>

- ①教員が同じ空間にいるということもプロンプトになっているため、着替えの後半は、着替えコーナーの外から見守るなどプロンプトを減らす。
- ②イヤーマフを入れるための所定のカゴを用意し。



# 指導の手続き

○指導場面：朝の着替え場面（教室にある着替えコーナー）

○対象児の着替えの行程

①上靴を脱ぐ

②制服を脱ぐ（ブレザー→シャツ→ズボン）

③体操服を着る（上着→ズボン）

④上靴を履く

※着替えの際，①～④の手順が文字とイラストで書かれたパートスケジュールを使用。

対象児は着替えコーナーに入った後，パートスケジュールを確認しながら，着替えを行う。





## 指導の手続き②

### 【介入1】

座り込みを防ぐために、着替えコーナーのスペースを狭くする。  
iPadやベビースターなどの好子を着替え終了後に用意する。

### 【介入2 (第1回アドバイザーからの助言後の指導)】

行動が連鎖的にできるようになるまでは、プロンプトを多めに出す。  
(例: 教員がスケジュールを裏返したり、体操服を持ったりする。)

賞賛を行う際、小強化と大強化を使い分ける。

(例: 大強化→iPadやベビースターなど 小強化→教員の「そう」のことばかけ)

### 【介入3 (第2回アドバイザーからの助言後の指導)】

イヤーマフを着用した状態で着替えを行う。その際、ひとりで取り外しが行えるように所定のカゴを用意しておく。

# 記録方法と記録

○着替え行程①～④までにかかった合計時間を記録する。

○各項目の支援度合いを○, △, ×で評価する。

※特記事項があれば右欄に記入する。

○…支援なし

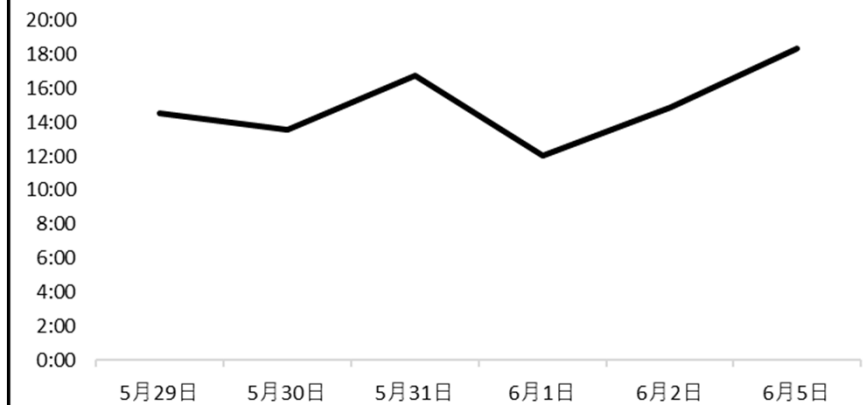
△…指差し, ことばかけ等の支援あり

×…身体的支援あり

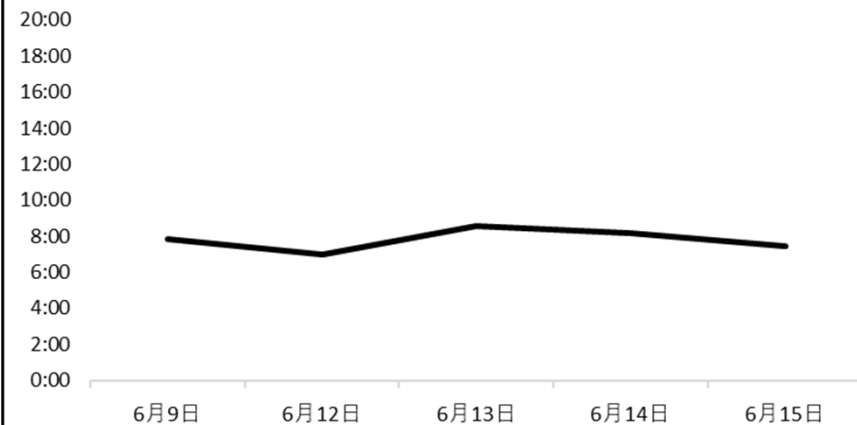
	/		/		/
ズボンを脱ぐ(制服)	○				
上着を脱ぐ(制服)	△	ボタンを指差す			
体操服を着る	○				
靴を履く	×	他児鳴き声 座り込む			
合計時間	6:03				

# 指導の成果

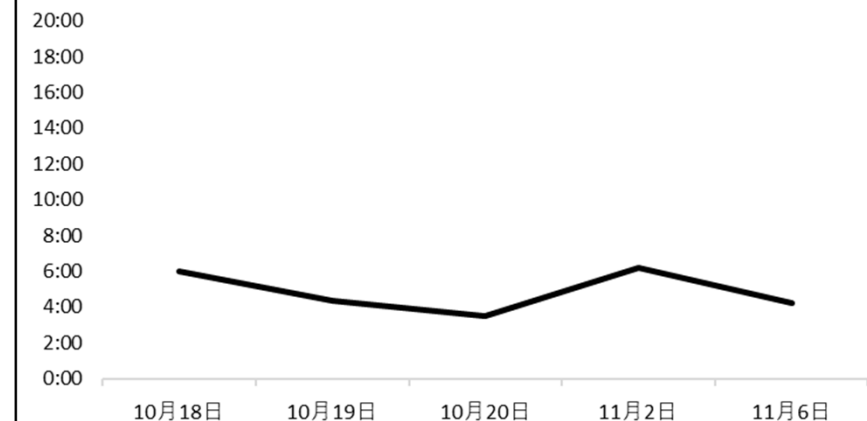
【BL】着替えにかかる時間(分：秒)



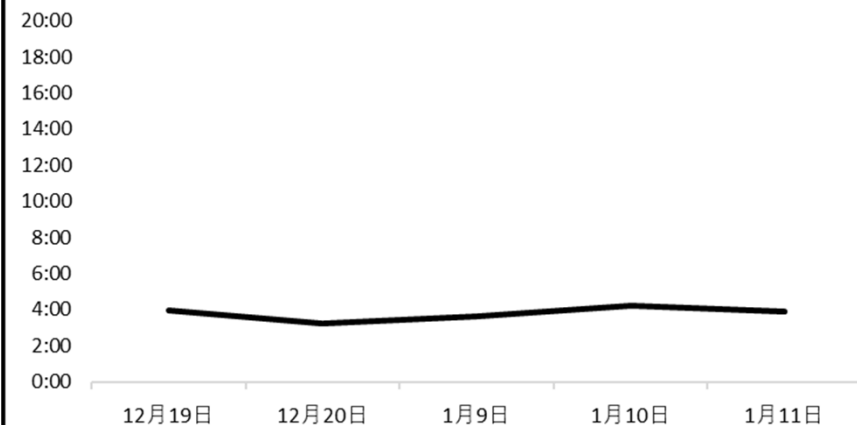
【介入1】着替えにかかる時間(分：秒)



【介入2】着替えにかかる時間(分：秒)



【介入3】着替えにかかる時間(分：秒)



# 指導の成果

○表には、着替えにかかる合計時間(分:秒)を示した。

〔結果〕

BL期…平均15分      介入1…平均8分

介入2…平均5分      介入3…平均4分

→介入2と介入3では、時間的な差がほとんど見られないが、介入3ではプロンプトの量が減り、ほとんど支援なく着替えができるようになった。

BL期から比較すると…およそ **10分** の短縮につながった！

# ここが成功のポイント

## ☆連鎖的に行動を教えたこと！

エラーレスを心がけ、空想の世界に入ったり、座り込む前にプロンプトを多く出すことで、一連の流れで着替えに取り組むことができるようになった。また、着替えに取り組んでいる間も「そうそう」「いいね」などの小強化を行うことで、自信を持って次々と着替に取り組むことができていたのではないだろうか。

## ☆環境を工夫したこと！

聴覚の過敏さがあった対象児にとって、イヤーマフは重要なアイテムであった。着替えの際には邪魔になるだろうという固定観念から、指導当初は使用していなかった。自分で取り外しをするように指導し、カゴを用意するなど環境を整えることで、雑音を気にせずスムーズに着替えられるようになったのではないだろうか。